

いばらきの 地域医療

2010年6月

第20号

■発行・編集／茨城県医師確保支援センター

茨城県ドクターヘリ運航開始～フライトドクターからのメッセージ

自分の持てる力を最大限発揮し、一人でも多くの人を助ける

独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター
救命救急センター・外科医師 **石上 耕司**

■ドクターヘリの体制と現状

7月1日から、いよいよドクターヘリが始動します。水戸医療センターには日・月・火曜日、水戸済生会総合病院には水・木・金・土曜日にヘリが待機することになるので、現在はフライトに備えて消防本部など各方面とのシミュレーションを行っています。

水戸医療センターのフライトドクターは、救命救急センターの医師が3人、循環器科の医師が3人、さらにケースによっては脳外科の医師1人がサポートに入り合計7人体制の予定です。フライトナースには、救命救急センターの経験豊富な看護師7人が決定しています。出勤時は、救命救急センターの医師、内科の医師、看護師の計3人体制です。

長崎県に研修に行って感じたのですが、医師一人では処置や病院の振り分け、急変の対応などに追われますから、2人の医師が搭乗するのは非常に良いことだと思います。

当院でのドクターヘリの運航開始は7月4日になりますが、現在は2階の救命救急センターから階段を使い40秒でヘリに乗り込む最善のルート確保など細かい部分の詰めに入っている状態です。全国的にも要請を受けてから平均3分で出動していますので、それをさらに短縮できるよう、みんなで走り込みをして体を鍛えています。

■救命医療にかける情熱と意気込み

茨城県の県北地域は、救急病院が充実していないので、大きな外傷患者は水戸地域まで1時間ほどかけて搬送しているのが現状です。しかも、茨城県は交通事故死者数が全国ワースト6位で、交通事故などの外傷で亡くなる

5月27日(木) 取材



左から小田部看護師、相馬看護師、植地看護師、田中看護師、古橋医師、石上医師、堤医師

方が他の首都圏の地域と比べて多い状況です。筑波大学で学んでいた頃からそのような外傷の患者さんを一人でも多く救いたいと考え、外科の研修を経て今年から救急医療に携わっています。

フライトドクターには、自ら志願しました。ドクターヘリは、何か特殊なことをするというのではなく、ただ単純に高水準の医療を現場に提供し、なるべく早く搬送して手術や心臓カテーテル検査に移行できるというのが一番のメリットです。ただ、搬送中はある程度医療技術が限定されてしまいますが、そういう中で自分の持てる力を最大限発揮し、一人でも多くの人を助けるのはやりがいのある分野だと思います。

研修医・ 医学生への メッセージ

茨城県は、県北地域は本当に病院数も医師数も少なく、県南地域は医師が多い傾向です。県南地域以外は、基幹病院ですら医師が不足していて、特に救急医療や、外科、産科、小児科などに関しては手が足りないのが実情です。研修医・医学生の皆さんには、茨城の戦力となって欲しいし、県外にいる方にはぜひ戻ってきていただきたいです。茨城の医療は東京などと比較すると、人が足りなくて大変な部分もありますが、それを越えたやりがいがあります。

エッセイ

女性医師のさらなる活躍に向けて～子育て中の女性医師

はたらくかたち

つくば健仁会とよさと病院 伊藤 きょう子



出産をするまで、私は自分が出産後もこれまでどおりに医者として多くの時間を過ごすということを疑わなかった。実際、精神科医として日々臨床をし、司法精神医学や被害者のための精神医療についての専門家を目指して少しずつ研究や実績を積みつつあった。しかし出産後、予想に反して価値観が変わってしまった。

産んでみたら、子どもが単純にかわかったのだ。かわいいといっても外見云々ではなく、(文字にしてみると陳腐だが)とてもいとしくその大切さは他で代替されるものがないような気持ちになったのだ。相対的に自分の人生における仕事の比重は減ってしまった。私は元来子ども好きではないし(むしろ小さい子は苦手だった)、おせじにも家庭に向いているとはいえない性分だ。それなのに出産という出来事によって価値観が大きく変わったのである。

子どもが7ヵ月になるまで育休をもらい仕事に復帰した。職場では時短勤務をさせてくれたので、他の人より少し早めに病院を出て子どもを迎えに行くかたちでの再開だった(当直も免除された)。次第に、子どもと離れて仕事モードになり夕方にはまた母親スイッチが入るとい生活にも慣れ、仕事も育児・家事もなんとなく回っていくようになった。今は出産前よりも少ない仕事と子育てで毎日が過ぎていく。

友人の中には出産後育休も取らずに職場復帰した人も

いれば、非常勤などになり仕事のペースを落とす人、いったん仕事を辞めた人、などいろいろである。人それぞれで価値観が違うことは当然で、その価値観にそって仕事のスタイルを選択できるのがやはり望ましいだろう。まさに昨今はやりのワークライフバランスである。私の場合、自分の価値観に合わせた仕事のスタイルを取れる制度が職場に整っていたことはありがたかった。もちろん、一緒に働く医師の方々に支えられてのシステムであることを忘れてはいけないと思うのだが、育児期という人生の限られた期間に、どのようなスタイルで働くかの選択肢が多い医療機関がこの先も増えることを願いたい。



診察中の伊藤医師(右)



茨城県からのお知らせ



茨城県医師の子育て支援奨励金

茨城県では、医療機関管理者などが子育て支援への理解を深め、女性医師の就業促進を図るため、医師の子育てや女性医師の働きやすい環境づくりに努めている医療機関に対し奨励金を支給しています。支給の要件は、育児休業、短時間勤務などの措置を新たに就業規則等で規定し、3ヶ月以上の利用者がいた場合、医療機関に支給します。

とよさと病院は
平成21年度
子育て支援奨励金の
対象となりました。



詳しくは、茨城県医療対策課医師確保対策室にお問い合わせ下さい。

臨床研修病院合同説明会 レジナビフェアのお知らせ

“実習や研修で忙しくて病院見学になかなか行けない” “気になる病院が遠方で行く時間がない” という方は「レジナビフェア」にご参加ください。

「レジナビフェア」は、全国の病院が一堂に介し病院担当者の方から生の声を聞くことができる情報収集の場として東京と大阪と福岡で開催されます。

今回は、7月18日(日)に東京で開催される医学生向けの“初期研修フェア”をお知らせします。各ブースとも医学生の皆さんとお話できることを心待ちにしております。

入場は無料です。ぜひ、お立ち寄りください。

(主催:メディカル・プリンシプル社)



会場の様子

研修病院合同説明会 医学生

レジナビフェア

2010 in 東京

7月18日(日)

会場:東京ビッグサイト

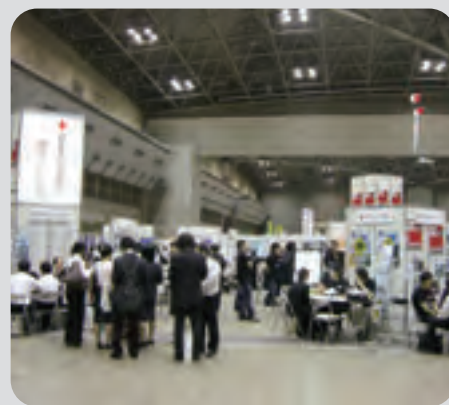
茨城県からの参加病院

- 筑波大学附属病院(つくば市)
- 筑波メディカルセンター病院(つくば市)
- 東京医科大学茨城医療センター(阿見町)
- 水戸赤十字病院(水戸市)
- ※日本赤十字社ブース

茨城県医師臨床研修連絡協議会による “いばらき合同ブース”

- 茨城県立中央病院(笠間市)
- 鹿島労災病院(神栖市)
- 国立病院機構 水戸医療センター(茨城町)
- 総合守谷第一病院(守谷市)
- 取手協同病院(取手市)
- なめがた地域総合病院(行方市)
- 日立総合病院(日立市)
- 水戸済生会総合病院(水戸市)
- 水戸総合病院(ひたちなか市)
- 友愛記念病院(古河市)

※都合により参加病院が変更になる場合があります。



詳しい情報はこちらをご覧ください

<http://www.residentnavi.com/>

研修医 Relay Essay リレーエッセイ

茨城県南部～千葉県北西部地域の中核病院である取手協同病院で初期研修を始めて2年目になります。初期研修は大学病院でなく地域医療の現場で、生きた技術と知識を身に付けたいと考えていた私にとって、この病院での研修はまさに望んでいたとおりのものといえます。体力、知力の面で苦勞することもありません(思う存分満喫した学生時代、もう少し勉強に当てれば良かったと反省することもしばしばです)が、毎日とても充実しています。

多くの指導医の先生方に非常にお世話になっているのは勿論ですが、熱心で優秀なコメディカル・スタッフ

総合病院取手協同病院
初期臨床研修医 渡辺 恵莉



に教わることも本当に多いです。看護師、放射線技師、ME、リハビリスタッフなど専門職すべての協力があってこそこの医療であることを日々痛感しています。それと同時に、チーム医療の中で自分の果たすべき役割についてあらためて考え、もっと勉強しなければと思う毎日です。

将来どの科に進むとしても、駆け出しの数年間には無駄な経験は一つもありません。今後の医者人生の基礎となる、幅広く強固な土台をつくるべく、残りの初期研修生活を精一杯頑張りたいと思います。

病院紹介コーナー



総合病院土浦協同病院

土浦協同病院は茨城県南部にある土浦市に位置し、昭和45年から現在地において907床を有する地域基幹病院としての役割を担っております。当院は、県南地域のみならず茨城県全域にわたって、救急医療、がん診療、小児・周産期医療、高度医療の提供から、リハビリテーション、訪問看護ステーションなど、地域に密着した患者さん中心の医療を展開しています。救急センターでは年間53,000件の救急患者に対応し、救急車は8,000台を受け入れています。また茨城県地域がんセンターとして施設、研修体制を整備し、放射線治療の充実が図られています。私どもの使命は、常に質の高い安全な医療を提供し、人材を育成し、地域住民の皆様から信頼され、親しまれ、誰もが安心して受診できる病院を構築することにあります。

当院では、公募研修医を10人募集していますが、東京医科歯科大学、筑波大学から襍がけ研修医も各学年10人ほど受け入れています。研修医は多彩な研修カリ



キュラムのもと40人ほどで構成されていますので、症例数の豊かな臨床現場での研修のみならず相互の交流も盛んであり有意義な研修成果が得られるものと確信しております。救急医療をはじめ各診療科の研修では、厳しい臨床現場が待ち受けていますが、優れた指導医はもちろん看護師さんやコメディカルスタッフが温かく迎えてくれますので安心して研修に邁進してください。

茨城県からのお知らせ

後期研修病院合同説明会のご案内

県内の後期研修病院が集まる合同説明会を実施します。各診療科での専門医資格取得を目指す皆様に全国屈指の充実した指導体制と魅力ある研修プログラムを紹介いたします。臨床研修医だけでなく、Uターンを希望する皆様の参加もお待ちしております。

- **申込み方法** / 「合同説明会参加希望」と明記し
下記アドレスに送信してください。
- **記載事項** / 「氏名」、「病院名」、「卒後勤務年数」
- **日時** / 平成22年8月8日(日) 14:00~17:00
- **場所** / つくば国際会議場1階多目的ホール
(つくば市竹園2-20-3)
- **内容** / 病院・診療科による個別相談病院担当者、
指導医の声が聞こえるよう、
各病院専用ブースを設置いたします。
- **対象** / 医師、研修医
- **参加病院** / 茨城県内後期研修病院
(参加病院及び参加診療科は下記ホームページをご覧ください。)



茨城県医師確保支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp